

「変形菌の世界 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

変形菌は「変形体」の時代に、自由に移動する。移動するといっても、動く速度は1時間で1cm程度で、見ているとわかるようなものではない。しかし、2～3時間ごとに観察しに行くと、明らかに場所や形に変化が見られるのがわかる。



これはヤマザクラの古い切り株の上に発生した「ススホコリ」の変形体である。中心部から樹枝状に変形体を伸ばしている。すでに栄養摂取は終わっているようで、子実体を作る場所を探していたようだ。驚くべきことに、この変形体全体が「一つの細胞」という事実がある。しかし核は無数にあり、いわゆる「多核体」を形成しているという。一つの細胞なので、内部では「原形質流動」が相当な速さで起きているという。



数時間後変形体は、切り株の上にあったクルミの実に「集合かかっているから」と、終結していた。針状に変化し、子実体を形成する前段階に入っている。



更に数時間後、黒い子実体に変化していた。ススホコリは、他の変形菌のように「キノコ型の子実体」は作らず、煤(すす)のような黒い塊状の子実体を形成することから、この名がある。写真はまだ水分が残っている時の状態である。



翌日には水分が蒸発し、ひび割れたチョコレートのような孢子塊に変化していた。



更に翌日、子実体の部分は、色褪せて白く変色していた。ススホコリの子実体は、水分の多少、時間経過によって、色や状態が変化するのが特徴だ。これは、変化を動画で撮ってみるしかないと思った。